

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：12602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K21079

研究課題名（和文）看護師の根拠に基づく実践の継続のための組織学習活動促進プログラム構築の基礎研究

研究課題名（英文）Preliminary research for establishing a program to promote organizational learning activities for nurses' sustainment of evidence-based practices

研究代表者

石井 馨子 (Ishii, Keiko)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・特任助教

研究者番号：90936428

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、根拠に基づく実践の継続的な実施に有効と考えられる部署の学習活動の規定要因を明らかにすることを目的とした。

看護職等の医療従事者にグループインタビューを実施した。分析の結果、規定要因として【社会政治的背景と保健医療政策】（例：社会からの要請）【スタイル】（例：心理的に安全な風土）、【組織の共通価値観】（例：看護管理者が持つビジョン）、【戦略】（例：看護管理者の戦略的思考）、【技術】（例：医師のソフトスキル）、【スタッフ】（例：専門職意識）、【システム】（例：看護部が部署を支援・指導する仕組み）、【組織構造】（例：業務分担を見直す体制）の8カテゴリ45項目が抽出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は看護職向けの実装戦略の開発に向けた基礎研究として、組織変革の枠組みを基に、部署の学習活動の規定要因を組織内外の階層と多様なステークホルダーを含めて明らかにした。既存の実装戦略では、看護職が組織の状態を把握したうえで実践の場に適した戦略を活用することは難しかった。本研究は、組織の状態を体系的且つ包括的に提示しており、組織の管理者や看護職が組織の状態を把握する枠組みとして本成果を活用することで、部署の学習活動が活発になり、新しい実践の継続と組織への定着が促進できる可能性がある。また本研究は、組織論を基に実装戦略の開発を目指す点が新しく、理論への貢献も期待できる学術的意義の高いものである。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to identify the factors that promote or inhibit learning activities in hospital wards, which could be effective for nurses' sustainable implementation of evidence-based practices (EBPs).

We conducted focus-group interviews with healthcare professionals involved in implementing EBPs in the wards. By conducting a content analysis of the axis of the organizational change framework, 45 items were identified across eight categories: sociopolitical context and healthcare policy (e.g., demands from society), style (e.g., a psychologically safe climate), superordinate goals (e.g., nurse managers' vision), strategy (e.g., nurse managers' strategic thinking), skills (e.g., doctors' soft skills - communication skills, creativity, open-mindedness), staff (e.g., professionalism), systems (e.g., a system for the nursing department to support and instruct the EBP-implementing departments/wards), and structure (e.g., a system for flexibly reviewing the allocation of duties).

研究分野：看護管理学、組織開発、実装科学、実装戦略、Evidence-based practice

キーワード：看護管理 組織開発 組織学習 実装科学 実装戦略 Evidence-based practice

1. 研究開始当初の背景

科学的根拠に基づく実践（Evidence-based practice：以下、EBP とする）は、医療の質の保証や看護職の専門職意識の向上、病院管理の視点等から重要であり、採用した EBP を各医療者が継続的に実施するために、医療施設は様々な活動を実施している。しかし、採用した EBP が継続的に実施されず、単なるタスクとして形骸的に実施される場合もあり、有効な活動ができていないとは言い難い。

申請者は、部署の組織学習活動（部署への EBP の定着につながる集団の学習活動：以下、部署の学習活動）（Ishii et al., 2023）が、部署全体の“EBP の内在化”（EBP の根拠と意義を理解し、肯定的態度をもって自身の実践に取り組んでいる状態）を高めることを介して、看護職の EBP の継続的な実施につながることを明らかにした（Ishii et al., 2024）。各部署が組織学習活動を高く行うことで、部署全体で EBP の内在化が高まる、つまり EBP の根拠や価値の理解が深まり、形骸的な実践を防ぎ、継続的に実施する可能性がある。各部署が学習活動を行うことが重要であるが、部署の学習活動に必要な要素や活動を高める要因は明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究では、病院が採用した EBP に対して各部署が部署の学習活動を行うために必要な要因や促進/阻害要因を明らかにし、部署の学習活動に対する影響を検証するために以下の2点を目的とした。

- ①. 病院が採用した EBP を実施する部署における、部署の学習活動の程度が高い部署の特性と活動に必要な要素と促進/阻害要因をし、部署の学習活動の規定要因として抽出する。
- ②. 1で抽出した要因と集団の組織学習活動測定尺度（Ishii et al., 2023）の8因子に対する各要因の影響を検証する。

3. 研究の方法

研究1 病院が採用した EBP を実施する部署における部署の学習活動の規定要因の抽出

- (1) 対象施設と対象部署（病棟）全国の200床以上の病院。
- (2) 対象とする Evidence-based practice（対象 EBP）
過去1年以内に病院または看護部が導入した実践の内、原著論文やガイドラインでエビデンスが示されている看護ケアや実践。
- (3) 対象部署と対象者
調査時点で対象 EBP を実施している部署とし、対象部署で対象 EBP の導入から実装までに関わった医療従事者（看護職、看護管理者、医師、薬剤師、栄養士等）。
- (4) 調査方法
インタビューガイドを用いた対面またはオンライン形式のフォーカスグループインタビューと無記名自記式質問紙調査。結果の厳密性の確保と信頼性、妥当性を確認するためにグループインタビューの参加者から承諾得られた者を対象にインタビュー終了後5～6か月後に Think aloud 法によるインタビューを実施した。
- (5) 調査内容
インタビューでは、対象 EBP の実施状況、EBP の実装と継続に向けた集団の組織学習活動測定尺度（Ishii et al., 2023）の8因子に含まれる学習活動の状況や学習を実施する上で必要な要因や促進/阻害する要因を尋ねた。
- (6) 分析方法
収集した音声データは専門業者が文字起こしを実施し、逐語録を作成した。分析には、内容分析を採用し、分析の軸として組織内の要素を分析し、組織変革に向けた介入要素を理解できる 7S framework（Waterman et al., 1980）を用いた。

4. 研究成果

(1) 対象施設と対象部署

調査には、5 病院（特定機能 1，地域医療支援 1，一般 3）、8 部署（混合 3，外来 1 脳神経外科 1，消化器外科 1，集中治療室 1，救急外来 1）が参加した。

(2) 対象 EBP

グループインタビューで尋ねる EBP として、4 つのタイプ（Rapid response team、抗がん剤の血管外漏出ガイドラインの実践、カテーテル関連尿路感染予防のための CDC ガイドラインの実践、アドバンス・ケア・プランニング（ACP））が選定された。

(3) 対象者

参加者は 30 名（看護師長 7 名，副看護師長/主任看護師 12，看護師 8 名，医師 2 名，薬剤師 1 名）だった。

(4) 部署の学習活動の規定要因

8 カテゴリー 40 項目が抽出され、新たな S の枠組みとして【社会政治的背景と保健医療政策】が抽出された。（表 1）

表 1. 7S の枠組みを用いた部署の組織学習活動の規定要因

カテゴリ	No.	Item
Style : 組織の目標をどのように達成するかという特徴、組織の文化的特質や象徴的な行動	1	全ての組織構成員にとって心理的に安全な風土
	2	EBP のプロトコールを遵守する風土
	3	職員間・職種間で疑問や違和感を言葉にできる風土
	4	新しい方法や道具へのオープンな姿勢
	5	看護管理者の EBP に関するリーダーシップ
	6	ブレインストーミングの習慣
	7	スタッフや部署からの提案を採用する風土
Superordinate Goals : 組織が構成員に植え付ける理念や指標となる概念、共通価値や共通理念	8	EBP の導入で実現できるものの価値の職種を超えた共有
	9	組織や部署に EBP を導入する目的の正しい理解
	10	看護管理者がもつ部署のビジョン
	11	職員間・職種間での実践における価値基準の相違の理解
Strategy: 顧客により良い価値を提供したり、サービスの有意性を達成したり、組織に独自の価値を生み出す方法	12	部署の看護管理者の戦略的思考
	13	EBP に精通する看護管理者の EBP 実施部署への配置
	14	EBP のプロトコールの提示
Skills : 関係者や組織全体の持つ能力	15	患者の病状や特性の理解
	16	部署の EBP 担当者のプロジェクト管理能力
	17	看護師の課題分析力、概念化力
	18	看護師の実践の省察力
	19	医師のソフトスキル（コミュニケーションスキル、創造性、オープンマインドなど）
Staff : ソフト面は、スタッフのモラルや態度、モチベーションや行動。ハード面は、評価システムや研修プログラムなど	20	部門間/職種間で協力し合う関係
	21	看護管理者のスタッフを労う態度
	22	対象 EBP への心理的負担/抵抗感
	23	対象 EBP への医療者の興味・関心
	24	医療者のワーク・ライフバランスの意向
	25	EBP の実践への医師の支援的な姿勢
	26	EBP を実践することへの専門職意識
Systems :	27	EBP の実践者が対象 EBP の実施方法を学ぶ仕組み

組織を運営していくための公式・ 非公式の全ての手順	28	EBP を継続するための組織内の標準化されたシステム（情報共有や管理、記録システム等）
	29	EBP に詳しい他職種や他部署に相談できる仕組み
	30	看護部が EBP を実施している部署を支援、指導する仕組み
	31	管理者へのマネジメントスキルに関する教育体制
	32	部署の課題や成果を振り返る、評価する仕組み
	33	EBP を実施した患者や家族の事例をスタッフと共有する仕組み
	34	患者や家族へ EBP に関する情報を伝える仕組み
	35	看護職のキャリア過程に合わせた EBP の教育体制
	36	EBP のために業務分担を柔軟に見直す体制
Structure : 組織のしくみの特徴	37	EBP を進めるための業務の時間が確保できる体制
	38	EBP の実装を組織横断的に支援できる人材を活用する体制
Sociopolitical context and Healthcare policy : 社会政治的状況や保健医療政策	39	長時間労働是正方針
	40	EBP を行うことの社会的要請

(5) 今後の課題および展望

本研究により、EBP の継続に向けた部署の学習活動には組織内外の階層や EBP の実践を取り巻く様々なステークホルダーが影響していることが示唆された。また組織変革の 7Sframework では、組織の課題を総合的に分析し、組織変革を実現するための要素を理解できると考えられており、各 S が相互補完し、全体的な整合性が取れるときに組織変革が進む。本研究では、新たな S として「社会政治的状況や保健医療政策」が追加され、より包括的且つ体系的に組織のソフト面とハード面の把握が可能となった。しかし、対象 EBP の種類が限られているため、対象 EBP が追加となった場合は要因の過不足が生じる可能性がある。

想定よりも多くの要因が抽出されたため、研究 1 の結果を研究 2 に使用することは難しいと判断した。今後は、既存研究 (Powell et al., 2015) と本研究で得られた要因を比較し、項目を精練した上で量的調査を実施する。また部署の学習活動の先行要因だけではなく、EBP の継続的な実施に直接関連する要因を検証し、病院・部署・個人の階層を含めた看護職が活用可能な教育コンテンツや実装戦略の開発が期待される。

引用文献

- Ishii, K, Takemura, Y., & Ichikawa, N. (2023). Development of a Group Organizational learning Activity Inventory for the Implementation and Sustainability of Evidence-Based Practice in Nursing. *Journal of Nursing Management*, 3, 1–17.
- Ishii, K., Takemura, Y., & Kida, R. (2024). Relationship among group learning, individuals' and groups' internalization of evidence-based practice, and nurses' sustainment of the practice: a cross-sectional study. *Journal of Health Organization and Management*. (in press)
- Powell, B. J., Waltz, T. J., Chinman, M. J., Damschroder, L. J., Smith, J. L., Matthieu, M. M., Proctor, E. K. & Kircher, J. E. (2015). A refined compilation of implementation strategies: results from the Expert Recommendations for Implementing Change (ERIC) project. *Implementation Science*, 10(21), 1–14.
- Waterman, R., Peters, T., and Phillips, J. (1980). Structure is not organization. *Business Horizons*, 23(3), 14–26.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 松下 博宣, 石井 馨子, 木田 亮平, 藤谷 克己	4. 巻 14
2. 論文標題 コラボレーティブ・リーダーシップは組織学習と多職種連携を橋渡しする-日本語版多職種連携評価尺度 (AITCS- J) 等を用いた計量的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 INTENSIVIST	6. 最初と最後の頁 841-850
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.3102201040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Keiko, Takemura Yukie, Ichikawa Naoko.	4. 巻 3
2. 論文標題 Development of a Group Organizational Learning Activity Inventory for the Implementation and Sustainability of Evidence-Based Practice in Nursing	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Nursing Management	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2023/8584029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Keiko, Fujitani Katsumi, Matsushita Hironobu.	4. 巻 -
2. 論文標題 Interprofessional collaboration mediates the relationship between perceived organizational learning and safety climate in hospitals: A cross-sectional study	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 International Journal of Risk & Safety in Medicine	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/JRS-230026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Keiko, Takemura Yukie, Kida Ryohei.	4. 巻 -
2. 論文標題 Relationship among group learning, individuals' and groups' internalization of evidence-based practice, and nurses' sustainment of the practice: a cross-sectional study	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Health Organization and Management	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Ishii K, Takemura Y, Kida R, Ichikawa N.
2. 発表標題 The mediating effects of nurses' and groups' internalization of EBP on the relationship between group organization learning activities and continuation of EBP by nurses: A cross-sectional study applying an organizational learning model.
3. 学会等名 15th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井馨子, 武村雪絵, 市川奈央子.
2. 発表標題 科学的根拠に基づく実践の継続に向けた集団の組織学習活動尺度の開発と信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 第60回医療・病院管理学会.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ishii K, Takemura Y, Kitamura A.
2. 発表標題 Antecedent factors of organizational learning activities contributing to continuous implementation of evidence-based practice in hospital wards:A qualitative study using the 7-S framework
3. 学会等名 16th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石井馨子, 武村雪絵, 北村言
2. 発表標題 部署の組織学習活動と看護職のEvidence-based practiceの内在化の関連：横断研究のマルチレベル分析
3. 学会等名 第27回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------